

AgIの光化学的活性化と粒径の影響、効率の良さそうに思われない気体力学的方法で分離し、氷晶核の粒径効果を調べたもの、氷晶核活性度の過飽和度依存性をフィルター上のサンプルについて調べたもの(素地影響存在)等が報告された。

2日目はセッションIV、有機(生物起源の)氷晶核、で始まり討論は発表後まとめて行なわれた。Pseudomonas Syringae 他1,2のバクテリアが凍結核としてよく効くという報告が今回も生物関係の研究者によって発表された。これは霜害の発生に関して重要とみられるが、研究は注意深くなされたとは思えない。非常に高濃度のバクテリア液を大量に使った結果で、その大気氷晶核源としての解釈に誇張が目立った。この問題は polywater (一時話題になった特殊の水)と同じ運命をたどりそうである。尚、孢子の方がよく効くという報告もあった。セッションVは測定法についての論文が集められていて、1980年の国際凝縮核カウンターワークショップの結果の報告、マイクロカバークラス上へ凝縮核を取り、化学成分と活性度を決る方法(大竹)、吸湿性粒子のついた鏡面を熱して過飽和の水蒸気との平衡点をフィードバックで探し、その電流の読みから過飽和度を知る方法を使って霧中での過飽和度を測定し、その値が意外と高いのと又飽和以下の状態もよく存在することを報告したもの等があった。セッションVIIはエアロソルと雲核の測定結果と題し、海洋性エアロソルの総合報告、雲核を0.15%の過飽和度の下で飛行中に調べたもの、ハワイキューバでの測定結果、水でなくアルコールを使って北極圏のエアロソルを砕氷船上で測定したもの、日本上空へ到達する黄砂の詳細を調べたもの(石坂)等で、2日目の午後から3日目の午前にわたって発表された。尚、ポスターセッションの一般討論はなかった。この会議はドイツで行なわれたせいもあって、測定に関する論文が多かったが、その測定が何の目的でなされ、大気中の現象、殊に雲過程と如何に結びつくかという点に十分の注意が払われていなかった。雲核・氷晶核を気団の一種のトレーサーと考えて測定することも出来るが、雲過程への貢献という点でその重要性が認められている事を考えると、その点をもっとはっきりすることが今後の重要課題の1つと思われる。

クで探し、その電流の読みから過飽和度を知る方法を使って霧中での過飽和度を測定し、その値が意外と高いのと又飽和以下の状態もよく存在することを報告したもの等があった。セッションVIIはエアロソルと雲核の測定結果と題し、海洋性エアロソルの総合報告、雲核を0.15%の過飽和度の下で飛行中に調べたもの、ハワイキューバでの測定結果、水でなくアルコールを使って北極圏のエアロソルを砕氷船上で測定したもの、日本上空へ到達する黄砂の詳細を調べたもの(石坂)等で、2日目の午後から3日目の午前にわたって発表された。尚、ポスターセッションの一般討論はなかった。この会議はドイツで行なわれたせいもあって、測定に関する論文が多かったが、その測定が何の目的でなされ、大気中の現象、殊に雲過程と如何に結びつくかという点に十分の注意が払われていなかった。雲核・氷晶核を気団の一種のトレーサーと考えて測定することも出来るが、雲過程への貢献という点でその重要性が認められている事を考えると、その点をもっとはっきりすることが今後の重要課題の1つと思われる。

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
第4回極域気水圏シンポジウム	昭和57年1月20日～21日		国立極地研究所講堂
第2回水資源に関するシンポジウム	昭和57年8月3日～5日	空気調和・衛生工学会ほか	科学技術館(東京)
International conference on the physics, chemistry, and meteorology of precipitation scavenging, dry deposition, and resuspension	1982年11月29日～ 12月3日	American Meteorological Society et al.	Los Angeles
日本気象学会創立100周年記念式典	昭和57年5月25日	日本気象学会	日本教育会館
昭和57年日本気象学会春季大会	昭和57年5月26日～28日	日本気象学会	日本教育会館
第19回理工学における同位元素研究発表会	昭和57年7月5日～7日		国立教育会館